

平成30年度 学校関係者評価について

1 学校関係者評価委員の意見

(1) 学力向上に関すること

- どの学級も落ち着いて集中して授業に取り組んでいた。発表する子の方に体を向けて話を聴く姿から、相手を思いやり、理解し合うことを大切にした指導が行われていることがよく伝わってきた。
- 子ども達の興味関心を高め、理解を助けるように、実物（カステラ）や立体模型、大型テレビのディスプレイなどが活用され、とてもよかった。授業に工夫を凝らし、子ども達が楽しそうに授業に参加していた。
- 一斉指導の中では、個の見届けが大切である。書写の授業で、子どもの手に手を添えて、文字を書かせる姿があった。6年生の算数では、ペア交流で考えを説明し合う場面があり、一人一人を活躍させる意図がよく分かった。
- 道徳の授業では、いろいろな場面で登場人物の思いを考えさせ、発表し合う授業が行われ、とてもよかった。6年生の授業では、人を思いやる心や人の立場に立って考える力を感じた。4年生の道徳では、「審判にとって大切なことは何か」という発問に対して、「平等であること」と答えている子がいて、すごいと思った。
- 英語教育に力を入れ、星和中と連携して子どもに力をつけている。今後、国際化が進み、外国人とコミュニケーションをとる上で、英語は不可欠になる。これからも英語教育に力を入れてほしい。
- AIが普及し、自動翻訳機が普及しても、最後は人間同士のコミュニケーションが大切になる。わが社でもスリランカ人を採用したが、どうやって話しかけるか躊躇することがあった。今は、身振り手振りも交えてコミュニケーションをとっている。小学校のうちから、積極的に話しかける意欲や能力、態度を育ててほしい。
- デジタル教科書など、教材が電子化されていく中で、リアルとバーチャルをうまく使い分けるバランスが大切になる。電子化が進んでも、教師の人間力、実演力、子どもを引き付ける力は不可欠である。自分は何が得意かを考え、魅力ある先生であってほしい。
- 体育の授業では運動量を確保することが大切だ。技能教科は、時間をとって繰り返し練習することで技能を伸ばすことができる。

(2) 生徒指導に関すること

- 児童虐待が大きな社会問題になっている。不登校の増加も心配される。そうした中で、「学校が楽しい」という子が88%。今後も、注視したい数値だ。
- お互いを認め合うことを大切にしていることがよく分かった。学校経営計画にあるように「感動と笑顔のある学校」にしてほしい。
- 教室の掲示を見ると、一人一人の目当てと評価が書いてあった。子どもが自分で目当てを決めて、それを意識して自ら高めようとしているのがよい。
- 企業では、障がい者の雇用率2,3%が義務付けられている。障がいをもった人にどのように接してよいのか分からないことがある。子どもの頃から、障がいをもつ人と自然に触れ合う経験が大切だ。特別支援学級と通常学級の交流活動を大切にしてほしい。
- 上靴の踵を踏んでいる子がいた。転倒につながるので、足の大きさに合わせてきちんと履くように指導してほしい。

(3) その他

- 子ども達が頑張っている姿を見て安心した。しっかりした学校経営方針のもと先生方によくやっていただいている。自治会としても支援していきたい。
- 一昨年度の「キャリア教育文部科学大臣賞」、昨年度の「大垣市民大賞」、今年度の「MOA美術館文部科学大臣賞」と、素晴らしい賞を学校が受賞したこと

は、地域にとっても誇りである。
○平成31年度に学校、教師が目指すものをはっきりさせて、今年度以上に素晴らしい学校にしてほしい。

2 来年度への改善点

- (1) 学校経営の重点とした①英語教育の推進，②学力向上，③自己肯定感の向上については，成果が上がっていると理解をいただいた。県教育委員会によるカリキュラム・マネジメントの研究指定校として，英語の指導計画の作成や授業改善に努める。
- (2) 学校と保護者や地域との良好な関係を維持し，連携協力した指導を継続する。キャリア教育やふるさと教育，クラブ等で積極的に外部の力を借りる。
- (3) 学校からの情報発信については，ホームページの「学校掲示板」を見てもらうようにさらに啓発する。学校の教育活動への理解を広める。
- (4) 「働き方改革」に向けて，保護者や地域の理解を得ながら，職員の負担軽減に努める。職員がゆとりをもって，笑顔で子どもの前に立てるようにする。また，会議や事務量を減らし，授業の質を高めるための教材研究の時間を確保できるように努める。